

今日のトピック 最近の米国経済と長期金利の見通し（2018年2月）

米経済は+3%成長を継続、長期金利は徐々に上昇へ

ポイント1 雇用は順調に増加

在庫不足等で小売売上高は低調

- 2018年1月の非農業雇用者数は、前月比20万人増、失業率は4.1%でした。米国の労働市場は、依然、好調です。
- 同月の小売売上高は前月比0.3%の減少、自動車を除くと同横ばいとなりました。昨年のクリスマス商戦が活況だった反動や悪天候の影響によるものであり、一時的な落ち込みと見られます。

ポイント2 足元+3%の成長を持続

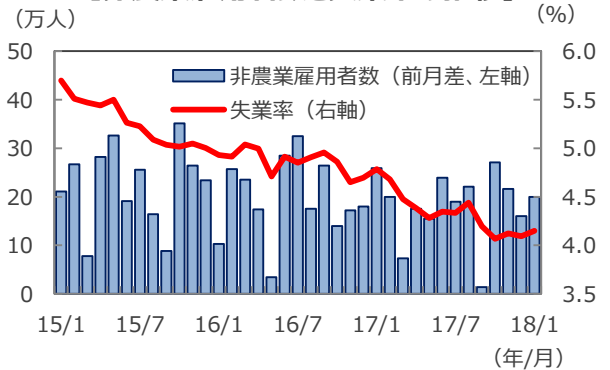
米議会は歳出の上限を引き上げ

- アトランタ地区連邦準備銀行が開発した経済モデルによれば、2月16日までに公表された経済指標をもとに推計した18年1-3月期の米実質GDP成長率は、前期比年率+3.2%でした。18年の米国経済は良好なスタートを切ったといえそうです。一方、物価は引き続き落ち着いています。1月の消費者物価のうち食品・エネルギーを除いたコア指数の上昇率は、前年同月比+1.8%にとどまりました。
- 米議会では、(1)2年間で総額約3,000億ドルの歳出上限の引き上げ、(2)暫定予算の延長（3月23日まで）、(3)債務上限の凍結（19年3月まで）を内容とする大型の財政合意が、2月9日に成立しました。今後は、実際に支出するための立法（18年度の歳出法）等が焦点となります。

今後の展開 長期金利は徐々に上昇へ

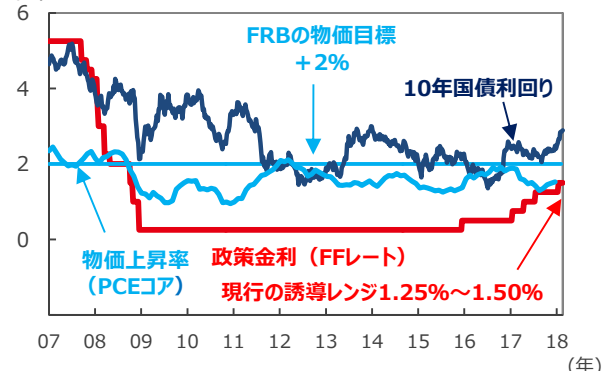
- 金融政策は、3月20日～21日に開催が予定されている次回米連邦公開市場委員会（FOMC）で0.25%の利上げが決定される見通しです。

【非農業雇用者数と失業率の推移】



(注) データは2015年1月～2018年1月。
(出所) 米労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFLレートと10年国債利回りは2007年1月5日～2018年2月20日。週次データ。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2017年12月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 米長期金利は、景気の上振れや賃金上昇率の加速、財政支出の拡大といった材料を織り込む展開となり、10年国債利回りで見ても年初の2.4%台から2.9%近傍まで上昇しました。今後も賃金や物価上昇率は緩やかに高まると見られ、長期金利は徐々に3%を目指す展開が予想されます。

ここも チェック!

2018年2月16日 米商業銀行の『融資基準』は引き続き緩和的
2018年2月 5日 引き続き良好な内容だった米雇用統計（2018年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。